



作品のポスターを手にする田代久美子理事長ら＝可児市大森奥洞、嫩葉舎

県ゆかりの映画 地元で

映画館ない多治見、来月ホールで上映会

「レジェンド&バタフライ」 地元団体が企画

織田信長と正室・濃姫の物語を描く映画「レジェンド&バタフライ」の上映会が4月30日、多治見市十九田町のバロー文化ホールで開かれる。映画館の復活を望む市民も多い中、県ゆかりの映画を皆で楽しみたいと、地元団体が協力して企画した。配給元の東映によると、開催は中部エリア初となる見込みで、公開間もない時期に上映会が企画されるのは珍しいという。

(箕浦由美子)

総製作費20億円をかけた、東映の創立70周年記念作品。上映会は東映側が提案し、地域活性化のため伊藤青少年育成奨学会が主催、市観光協会や多治見商工会議所などが共催することにした。

6日には可児市大森奥洞のバロー人材開発センター・嫩葉舎で記者会見があり、田代久美子同奨学会理事長のあいさつに続き、松島祥久同協会理事長が「多治見には2004年まで最大四つの映画館があった

が、なくなってしまった。これを機に、今後ホールでの上映の機会や施設などを設けることができないか、研究していきたい」と話した。

東映の磯部武史西日本支社映画配給室室長代理は、主演の木村拓哉さんらがぎふ信長まつりに訪れたことに触れ「映画は岐阜の皆さんに応援を頂いており、県全域で観賞の機会があればと相談させていただいた。濃姫の母親は土岐一族出身との説もあり、この地に縁の深い女性」と来場を呼び

かけた。

上映は午前10時から午後4時からの2回。チケット代金は未定。25日発売予定。

定で、同ホール窓口で購入できる。問い合わせは同協会、電話0572(51)8156。